



令和8年度「みやぎ環境税」の活用施策（案）について

1 みやぎ環境税の概要

- 宮城の豊かな環境を適切に保全し、次世代に引き継いでいくことを目的として、地球温暖化対策や森林の保全・機能強化をはじめとした喫緊の環境課題に対応するため、平成23年4月から県民税均等割の超過課税として導入。
- 令和8年度は、第4期課税期間(令和8年度～令和12年度)の開始年度となる。
- 税収は「環境創造基金」に積立。税収見込額・基金残高を踏まえ毎年度の税活用事業の予算規模を検討。

2 第4期課税期間における活用の方向性（みやぎグリーン戦略プラン）

- 活用事業は、「みやぎグリーン戦略プラン（第4期）」にて活用施策の方向性を定める。
- 現況及び社会情勢を踏まえ、「目指す姿」を見直し。

Point ○着実な脱炭素社会の実現に向けて、県民も主体的に動いていく
○海洋も含めた豊かな自然環境・資源を次世代に引き継ぐ

- 「目指す姿」の見直しに合わせて、活用事業の「視点」も見直し。
視点1：くらしや経済活動の脱炭素化
視点2：森林の多面的機能の発揮に向けた管理や再造林の推進
視点3：気候変動の影響への適応
視点4：生物多様性、自然環境の保全と活用
視点5：地域の脱炭素化を担う人材の育成

- 税収見込額は87.5億円
- 第4期の温室効果ガス削減目標は26万8千t-CO₂（一般家庭約1万5千世帯の5年分の排出量に相当）。
- 試験研究や5年間の普及啓発事業は、県民約29万人に波及するもの。

3 令和8年度の活用方針

- 県の気候変動対策の目標達成への寄与が大きい事業に重点化
✓家庭・事業所における省エネルギーの促進
✓水素をはじめとした次世代エネルギーの利活用 など
- 運輸部門におけるエネルギー利用の合理化
- 喫緊の課題となっている野生動物の管理

4 令和8年度の活用施策（案）

事業内訳	事業数	活用額 (構成比)	主な事業
環境税活用額合計	47	1,937,670	-
県事業	46	1,587,571 (100%)	-
視点1 くらしや経済活動 の脱炭素化	17	882,534 (55%)	・スマートエネルギー住宅普及促進事業(383,000千円) 【新】再配達防止モデル事業(2,633千円) 【新】みやぎ版モーダルシフト促進事業(20,000千円) ・FC産業用車両普及促進事業(21,395千円)
視点2 森林の多面的機能 の発揮に向けた管理 や再造林の推進	8	515,833 (32%)	・チャレンジ!みやぎ500万本造林事業(112,917千円) 【新】みやぎの木であふれる建物支援事業(38,134千円)
視点3 気候変動の 影響への適応	7	27,497 (2%)	・地球温暖化に対応した病害虫防除技術の開発(5,168千円) 【新】環境と高温に適応した施設園芸展開事業 (8,513千円)
視点4 生物多様性、自然 環境の保全と活用	11	152,565 (10%)	・野生鳥獣適正管理事業(76,002千円) ・湿地環境保全・利活用事業(22,519千円)
視点5 地域の脱炭素化を 担う人材の育成	3	9,142 (1%)	【新】みやぎエコ・エデュケーション・プログラム推進事業 (3,396千円) ・ルルブル・エコチャレンジ事業(4,121千円)
市町村支援事業	1	350,099	・みやぎ環境交付金

5 基金残高の推移見込

令和7年度末 残高 A	令和8年度増減		計 D(=B+C)	令和8年度末 残高 E(=A+D)
	積立額 B	活用額 C		
455,066	1,801,411	▲ 1,937,670	▲ 136,259	318,807



みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業



再生可能エネルギー地域理解促進事業



児童・生徒のための環境教育推進事業

再生可能エネルギー/次世代エネルギー導入支援

人材の充実



チャレンジ！みやぎ500万本造林事業



生物多様性総合推進事業



持続可能なみやぎの漁場環境づくり推進事業

自然環境の保全

海洋環境の保全

令和6年度	○ 実施事業による二酸化炭素排出削減量	23,754 t-CO2/年	○ 野生鳥獣管理（イノシシ・シカ捕獲）	4,127頭
	○ 森林整備面積（再造林・間伐）	300ha	○ 環境教育出前講座	52校
第3期 累計	○ 実施事業による二酸化炭素排出削減量	214,037 t-CO2/年	○ 野生鳥獣管理（イノシシ・シカ捕獲）	15,790頭
	○ 森林整備面積（再造林・間伐）	1,111ha	○ 環境教育出前講座	233校